

ネットワーク
KITA-NET Network

北海道に広がっていく、環境のネットワーク



KITANET Network
2015年7月現在
会員数
MEMBER
正会員
61団体・16個人
賛助会員
66個人
16企業・団体

きたネット
KITA-NET
NEWS
2015/07

きたネットWeb <http://www.kitanet.org/>
ラフアース・グリーンアップin北海道 <http://www.love-earth-hokkaido.jp>
森づくりナビ★北海道 <http://kitanet-mori.com>
環境情報Blog <http://blog.goo.ne.jp/kitanet-staff>
きたネットFacebook <https://www.facebook.com/kitanet.org>

認定NPO法人北海道市民環境ネットワーク
「きたネット」
北海道の環境保全活動を推進・支援する
団体・個人・企業が参加するネットワークです。

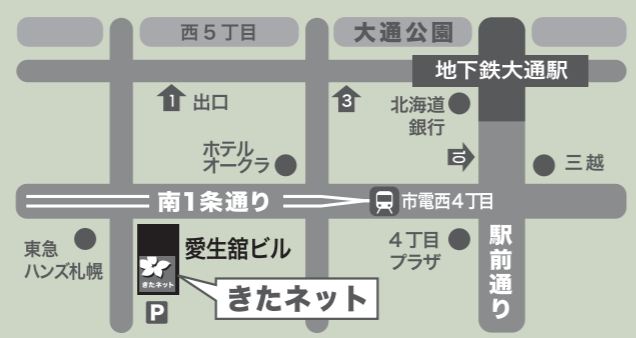
きたネット賛助会員／北海道の環境活動を支援する企業・団体

- 網走市廃棄物処理協同組合 / エムフォトワークス株式会社 / カサシマ建設株式会社 / 五島冷熱株式会社
小南印刷株式会社 / 株式会社櫻井千田 / 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団 / 親切会北海道支部
株式会社地域環境計画北海道支社 / DCMホームマック株式会社 / パタゴニア札幌北・パタゴニアアウトレット札幌南
株式会社プリプレス・センター / 株式会社古山商店 / 北海道自動車処理協同組合
一般財団法人前田一歩園財団 / 雪印種苗株式会社

【認定NPO法人 北海道市民環境ネットワーク事務局】
〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目8 愛生館ビル5F
Tel 011-215-0148
Fax 011-215-0149
E-mail office@kitanet.org



きたネットは、一般財団法人セブン-イレブン記念財団から助成を受け、市民の環境活動を支援する「市民環境活動支援協定」を結び、北海道の自然環境を子どもたちの未来へ引き継ぐために活動を行っています。



メッセージ
MESSAGE

2015年の総会が終了し、きたネットは13年目、中期5か年計画の5年目に入りました。北海道の環境市民活動を核としたネットワークも、正会員が60団体を超えました。賛助会員も16団体・企業となりました。効果的な環境保全活動の拡大をめざして、これからも活動していきます。今年から、これまで会員向けに発行していた「きたネットNEWS」をリニューアルして、ネットワークの活動を広くお伝えする誌面づくりを行っていきます。私たちの活動に興味を持ち、参加したい、いっしょに学び、取り組んでいきたい事業などがありましたら、気軽に事務局に声をおかけください。



コラム
COLUMN

多様な世代・地域、きたネットならではの化学反応が社会を動かす「てこ」になるといい

きたネット理事
麻生 翼 (NPO 法人森の生活 代表)

今年の下川は、6月の末になっても自宅の薪ストーブの出番がたびたびやってきて、なかなか夏気分にはさせてくれません。僕は日頃、町の面積の9割を森林が占めるこの町で、「NPO法人森の生活」という団体の運営を担っています。子どもたちを対象にした森林環境教育や、都市部の方々を対象にした森を楽しむ体験プログラムや研修の企画実施、市民主体の森づくり、滞在交流施設の管理運営等に携わっています。今年から、チップとして活用していた広葉樹の木材を木工用材として製材・乾燥させ、つくり手の方々に提供する活動も始めました。

して「素人林業」としての森づくりについて議論を深めたのですが、会場にいらしゃった森林ボランティアに携わっている方から、「これまで取り組んできた森づくりには持っていなかった視点で、とても新鮮な印象だった」という感想をいただきました。同じテーマで活動していても、世代や地域が違うとアプローチが異なることは多々あります。多様な世代・地域の活動家が構成するきたネットならではの化学反応を感じた場面でした。若者男女が入り交じる、きたネットのイベント後の飲み会の雰囲気、僕はけっこう好きです。

「会員数増を図る段階は過ぎた。既存会員の満足度を上げていくとともに、ステップアップし、このネットワークで何ができるのかを検討していく」。去る5月16日に開催された2015年度きたネット通常総会で、みなさんにお伝えさせていただいた中期5ヶ年計画の進捗総括の一文です。北海道の環境活動が置かれている状況が大きな転換点に立っていることを自覚し、きたネットが、ネットワークの力を引き出し、みんなで社会を動かす「てこ」になれるよう、今後も微力ながら運営にあたっていきたく思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

きたネットの理事を務めさせていただいたのは2011年から。これまで、きたネットの行事に色々関わらせていただきましたが、その中でもっとも印象に残っているのは、KITA-NET北海道環境活動交流フォーラム2013の分科会「森林の利活用を促すために」でしょうか。日頃、個別にご一緒する機会はありませんでしたが、一度に集まる機会はないメンバーの方々と顔を合わせて議論できたのは貴重な機会でした。その分科会では、学びの場や遊びの場、そ

インフォメーション
INFORMATION

2015年通常総会(5/16)において役員を改選しました。新理事2名を含む以下の体制で運営していきます。



- 理事長 秋山孝二(個人会員)
副理事長 枝澤剛行(ふるさと美幌の自然と語る会)、川口弘高(個人会員)
理事 麻生翼(NPO法人 森の生活)、植田英隆(個人会員)
井下龍司(一般財団法人 セブン-イレブン記念財団)
内山到(個人会員)、草野竹史(NPO法人 ezorock)
清水誓幸(個人会員)、鈴木玲(手稲さと川探検隊)
辻昌秀(個人会員)、西川滯二(北海道林業技士会)
常務理事 宮本尚(個人会員)
監事 高橋忠義(定山溪ホテルの会)、小林保則(個人会員)



「ごみ拾いビーチウォーク in石狩」(6/14)

～総勢608人のごみ拾い～

きたネットでは、環境月間の6月にラブアース・クリーンアップin北海道の活動のひとつとして「ごみ拾いビーチウォークin石狩」を実施しています。石狩浜でごみ拾いを始めて6年(共催のNPO法人海浜美化を進める会では長年実施しています)、毎年同じ場所で行っていますが、ごみの量は減らず、1日で約3tが収集されています。

■2015年度ごみ収集量：合計2,277kg
内訳(石狩市の分別方法による)
燃える：517.5kg／燃えない：402.5kg／燃やせない：747.5kg／粗大：402.5kg
処理困難物(魚網)：172.5kg／自動車部品：34.5kg／タイヤ2本／テレビ3台)

今年は、大型ごみが減り重量は少なかったもの、ごみ袋で回収されたごみは、例年より多いくらいの量でした。特にビニール類が目立っていました。

会場の三線浜は、海浜植物などの自然の宝庫である石狩浜の一角で、レジャーを楽しむ人が多く集まる場所です。不法投棄やレジャー後のごみの放置をなくし、自然豊かな海浜環境を保全するために、今年もたくさんの方が参加してくださいました。

■共催：NPO法人北海道海浜美化を進める会
■協力：石狩市、札幌方面北警察署
NPO法人ezorock
北海道大学P-コネクション
北海紙管様



きれいになりました!



きたネットセミナー 2015 「北大植物園の歴史と、絶滅危惧植物の生育地外保全に果たす役割」(5/16)

総会の同日行事、今年は北海道大学北方生物園フィールド科学センター植物園長、富士田裕子教授による講演と植物園エクスカージョンを開催しました。北大植物園には、植物学の学びの場、分類学・生態学の調査研究の場、一般の方に植物の多様性を伝える場、野生植物の収集・育成・系統保存の場等の役割があるそうです。特に絶滅危惧植物保全拠点園の一つとして、北海道や高山帯の絶滅危惧植物の栽培・増殖に取り組んでいます。力を入れてきたのはレプンアツモリソウをはじめとするアツモリソウ属の育成・保存です。土壌菌に感染する事で菌糸を栄養して発芽する、非常に栽培が難しい種ですが、長年の取組みで地植えでも満開の姿を見る事ができるようになりました。アポイ岳のヒダカソウの保存では、近年、開花個体が激減、開花しても種が未熟で発芽できないため、地下茎で増やす方法を進めているそうです。気温上昇の関係で北方系植物や高山植物の栽培・育成の役割を担えるのは、日本では北大植物園くらいになってしまっているということです。次の取組みとして、植物園で育成、保存できている個体群が、種の中でどのような遺伝子を持ったものなのかを研究し、遺伝子構成の違う多様な個体群を保全していくそうです。

北大植物園はクラーク博士の提言で1886(明治19)年に設置。当初は北3条西1丁目、1883年に現在の場所へ。札幌中心部にありながら当時の札幌原野の様子を残す貴重な場所です。この3月には設立当時の重要文化財・登録文化財の耐震補強工事が完成しました。明治建築の図書室で、故辻井達一先生がパイプをくづらしていたという思い出もありました。講演の後は植物園エクスカージョン、灌木園からブナ、樹木園、北方民族植物標本園、重要文化財群、高山植物園と一巡り。「ハンカチの木」が満開でした。最後に、2004年の台風を境に入園者数が激減、「もう札幌市の真ん中にこういう施設をつくることはできない。いろいろな活動にもっと活用してほしい」ということです。



きたネット会員

KITA-NET MEMBERS



NPO法人 ezorock (札幌市)

若者の発想と力で、人や社会を変えていく

2000年に北海道石狩市で行われた野外音楽フェスティバル「RISING SUN ROCK FESTIVAL」における環境対策ボランティアに参加したメンバーが中心になって、2001年4月に設立しました。「DO IT YOURSELF」「RESPECT OTHERS」という自立と共存を前提としたフェスティバルの基本的な姿勢が、21世紀を生きる私達には必要不可欠であるという考えを掲げ、地域や環境をフィールドに、次世代への担い手である若者のアイデアとパワーを活かした活動を展開しています。2015年現在、イベントでの環境対策活動や、イベントで回収した生ごみを堆肥化してじゃがいもを栽培し、翌年のイベントで来場者に還元する「循環」に配慮した活動、札幌市内のサイクルシェアの運営、森の中に眠る未利用材を活用した薪の生産と薪利用の普及啓発、大雪山国立公園での自然保護活動など、7つのプロジェクトを、北海道内20以上の市町村活動で展開し、年間3300人以上の若者が活動に参加しています。活動が落ち着く冬期間には、様々な分野の勉強会やセミナーを行い、さらに充実した活動を目指すべく、若者の人材養成・次のステップへのフォローに力を入れています。

【電話】011-562-0081
【HP】<http://www.ezorock.org/>

Book

会員団体が発行した冊子・書籍です。



手稲生きものハンドブック[第2版]

札幌市の琴似発寒川を拠点に自然体験活動を行っている団体が作成した、観察に役立つハンドブックです。手稲区に生息する魚類や水生昆虫、鳥類、草花、樹木など多くの生きものを写真入りで紹介。観察月日や場所を記入できます。A5判カラー24P、無料、札幌市環境プラザなどの環境関連施設で配布しています(部数限定)。<発行/問合せ>手稲さと川探検隊(メール)t-satogawa@mail.goo.ne.jp

Event

きたネット主・共催イベントです。詳細はお問い合わせください

- ・8/18(火) ラブアースの森づくりin札幌、会場：札幌市 茨戸川緑地
- ・9/20(日) インターナショナルごみ拾いビーチウォーク、会場：石狩市 石狩浜
- ・日程未定 ラブアースの森づくりin白老、会場：白老町 ウヨロの森
- ・10/18(日)13:00～(予定) 市民活動助成セミナー 2015、会場：札幌市 かでる2.7
- ・11/7(土)10:00～(予定) きたネットフォーラム2015、会場：札幌市 北海道大学FMI国際拠点



一般社団法人 湿原研究所 (大樹町)

地域を活性化しながら、貴重な湿原を未来へ

北海道湖水地方(十勝海岸湖沼群)のワイズユースを目的として、2012年4月に設立。湿原研究の第一人者だった故・辻井達一氏と庭園都市計画家の白井隆(当研究所所長)が、発起人の中核です。ワイズユース実現のためにエコロジーリゾートという方法を選択し、自然風景の資源化と湖水地方での酪農によるユニークな乳製品づくりを開始。辻井氏の発案で地中海のイタリア水牛を導入しました。乳製品は堅調な売れ行きで、南麻布を中心に高級食材として市場を獲得しています。地元では地域の仲間を募り、「タイキ・フローラ」と称して、北海道湖水地方の植物相調査をしています。学術標本を作り、昨年12月～今年3月、十勝管内6ヶ所で標本展示会を開催。好評を博し、今は有用植物の研究と植物園開園の準備中です。6月にはメットライフ生命(株)のご厚意で、飛行船から北海道湖水地方の撮影を行い、キモントー(大樹町)の自然度の高さに圧倒されました。地元自治体や経済団体等と連携して、ラムサール条約登録に向けた活動を始めています。流域の土地をトラスト手法で保全する計画もあります。

【電話】01558-7-8555
【HP】<https://www.facebook.com/wetlands.ins>

きたネットチョイス

KITA-NET CHOISE



自然観察ガイドブック「野幌自然休養林」

森林管理の専門資格を持つ林業技士が作成した、道立野幌森林公園の樹木と草花の図鑑です。植物の生態の説明に加え、名前の由来や先人の活用法などを紹介しています。自然観察ガイドをする時にも役立つ内容です。A5判カラー162P、税込1500円、郵送で購入できます(送料は同会が負担)。<発行/購入先>北海道林業技士会(電話)011-784-0158

きたネットに新しい会員団体が加わりました(2015年4月以降入会)
●NPO法人琴似発寒川市民フォーラム 西区ホタルの会(札幌市)
札幌市西区の琴似発寒川や五天山公園など、ホタル生息地の自然環境を保全しながら保護活動を行い、広く市民への啓蒙活動を行っています。通称「西区ホタルの会」。
●NPO法人札幌カラス研究会(札幌市)
カラスをはじめとする「身近な野鳥と人の共存」を目指し、札幌市中央区や豊平区を中心に生態を観察するとともに、住民や行政への啓蒙活動、情報提供等を行っています。